



本町の教育指標：「進取の気象」「国際性」「社会貢献」

嘉手納町 教育委員会だより

令和6年5月発行 嘉手納町教育委員会



学校の授業が変わります！GIGAスクール構想って何？

文部科学省は、令和の学びのスタンダードとして、「GIGA スクール構想」の実現を目指しています。GIGA スクール構想とは、簡単に言うと、「これまでの教育に1人1台タブレット、高速ネットワーク（インターネット）を取り入れることにより、子どもたち一人一人の個性に合った教育や先生や子どもたちの力を最大限に引き出す教育を実現する」ことです。

本町の小中学校は、今年度から文部科学省の「リーディングDXスクール事業」の研究指定を受け、未来の授業づくりについて研究をしています。

これからの授業は

「自分に合った学び、仲間とともに深める学び、創造性を発揮できる学び」になります！

A 一斉指導

A1 教員による教材の提示



B 個別学習

B1 個に応じた学習



C 協働学習

C1 発表や話し合い



B2 調査活動



B3 思考を深める学習



C2 協働での意見整理



B4 表現・制作



B5 家庭学習



C3 協働制作



教職員の働き方改革へのご理解・ご協力のお願い

長時間勤務による疲労や心理的負担の蓄積により、教職員が心身の健康を損なってしまった場合、日々の教育活動に大きな影響を及ぼしています。そのため、教育委員会では、教職員がワーク・ライフ・バランスを保ちながら、いきいきとした姿で、一人一人の子どもの成長と学びにしっかりと向き合うことができるよう、働き方改革に取り組んでいます。

この取り組みには、保護者・地域住民の皆様のご理解・ご協力が不可欠です。ぜひともお力添えをお願いします。

●全国的な教員のなり手不足

- ・全国的に、教員の過酷な勤務を敬遠し、教員を志願する学生が減っています。
- ・一方で心身の疾患により休職する教員や、若くして退職する教員が増えるなど、教員不足が深刻な課題となっており、このままの状況が続くと、学校運営が立ち行かなくなることが危惧されます。

幼小中学校の教職員の勤務時間 8:15～16:45

◆保護者の皆様へのお願い◆

1. 勤務時間外の電話対応

- 休日や平日の勤務時間以外の電話対応は、自動音声対応となっております。
- 平日：午前8時以前、午後4時45分以降

2. ノー部活デー・ノー残業デー

- 教職員の健康管理と児童生徒のメリハリのある生活維持のため、週1回実施します。
- 部活動は平日の1日に加え、土日のいずれかを原則休養日とします。

3. 学校閉庁日

- 8月第2週の水・木・金曜日は、リフレッシュウィークのため、学校が閉庁となります
- この期間の緊急対応窓口は、警察及び教育委員会となります。

4. 学校行事の縮小・スリム化

- 学校行事の持ち方を工夫して、簡素化や効率化を図ります。

◆地域の皆様へのお願い◆

1. 放課後から夜間における見回りの地域推奨

- 基本的には、学校以外が行う業務と位置づけられている街頭指導のご協力をお願いいたします
- 地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりをお願いします。

2. 部活動指導・登下校の安全指導

- 登下校の安全指導、学校の環境整備等、学校ボランティアのご協力をお願いします
- 部活動の地域移行へ向け、部活動指導員を募集いたします。

3. 休日等の対応

- 休日や放課後の児童生徒の指導等については、家庭や地域の皆様のご協力をお願いいたします。事件・事故等の緊急な連絡は嘉手納警察署へお願いいたします。

連絡先：嘉手納警察署 956-0110

【この件に関する問い合わせ】

嘉手納町教育委員会 教育指導課 098-956-1111

学校における働き方改革を実現することにより、「学校が人をつくり、人が地域をつくり、地域が学校をつくる」という循環（サイクル）の中で、質の高い学校教育が行われ、嘉手納の未来である子どもたちが地域の担い手となり、「ひと、みらい輝く交流のまちかでな」の実現につながります。

「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFUプログラム)報告会

「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFU:Think of Okinawa's Future in the U.S)プログラムは、沖縄の将来を担う高校生・大学生を米国に派遣し、関係者との意見交換や各種視察等を通じ、語学としての英語力向上を図るとともに、英語を用いて様々な分野について学ぶ教育機会を提供することを目的としています。

※派遣期間：2023年3月19日～27日 ※派遣先：米国（ワシントンDC、ニューヨーク）

嘉手納外語塾は、外務省の計らいで、毎年、複数名の塾生を派遣しています。2023年度は、塾生の小林快都さんと中原綾音さんが派遣されました（嘉手納外語塾ではこれまで12名を派遣しています）。

5月11日には、派遣された皆さんの報告会がラグナガーデンホテルでありました。

<主な日程>

林芳正官房長官表敬

◎ワシントンDC

20日 在米日本国大使館訪問

21日 国防省（ペンタゴン）訪問
現地学生との交流

22日 米国議会訪問、議事堂ツアー
戦略国際問題研究所訪問
国務省訪問

23日 ジョージタウン大学訪問

◎ニューヨーク

25日 在ニューヨーク総領事公邸訪問
国際連合日本政府代表部訪問
国連ツアー



米国で様々な方と意見交換する中で、沖縄の未来を考える機会にしてほしい。（官房長官）



米国議会議事堂



外交官シュミレーション



ニューヨーク（タイムズスクエア）



国連ツアー

「自分への信頼」を高めるボイスシャワーのすすめ

本町の指導行政の基本方針に、『自分への信頼』を高める勇気づけのボイスシャワーの実践』を各学校の共通実践課題として位置付け、取り組んでいます。（下記のとおり）

「自分への信頼」を高める勇気づけのボイスシャワーの実践

- 「ネガティブ・フォーカス」から「ポジティブ・フォーカス」への教育転換
 - ・子どもの「よさ（できている行動）」に焦点を当てた指導観をもつ
- ボイスシャワーによる自分への信頼と教師への信頼構築
 - ・子どもの「がんばり」や「やさしさ」を見つけ、言葉にして価値づける
 - ・学級経営の浮沈を握る内面と行動が不安定な子どもへのボイスシャワー
- 「子どもを全教職員で見守り育てる」という組織意識の向上と行動の日常化
 - ・児童生徒に名前を付けたあいさつや声掛けを組織的に展開する

保護者の皆様には、「ボイスシャワー」は聞きなれない言葉だと思います。「ボイスシャワー」とは、子どもたちにほめ言葉（承認の言葉）をシャワーのように浴びせるという意味の言葉です。

では、何のために、どうしてボイスシャワーが必要なのでしょう。それは、ボイスシャワーが子どもたちにやる気を持たせる最大の効果がある指導だからです。

子どもたちの中には様々な子どもがいます。毎日いきいきと生活し学習できている子どももいますが、やる気をなくし、勉強に精が出なかったり、学校に来るのが嫌になったり、また、親や教師と対立したりといった子どもたちもいます。そうした子どもの多くが、自尊心（自分が大切にされており、かけがえのない存在であるという感情）が乏しいのです。要は、自分が大切にされていないと感じている子どもは、将来に希望が持てず、勉強にやる気も起きないし、人と関わったり、人を大切にしたりする社会性も育たないというのです。まさにその通りだと思います。子どもたちのやる気を育てることが教育活動の基本になります。そのやる気を育てる方法がボイスシャワーなのです。ほめられ、認められて育った子どもは自分に自信を持つようになり、自信を持った子どもは全てのことにやる気で取り組めるようになってきます。ぜひ、ご家庭でも実践してみてください。



心に残る言葉！「恩返し」と「恩送り」

「鶴の恩返し」といえば、おじいさんに助けられた一羽の鶴が娘となり、自らの羽根を抜いて美しい反物を織り上げる話。浦島太郎に助けられた亀は、そのお礼に浦島を龍宮城へ連れていきました。このように、「恩返し」は親切にしてくれた相手に直接お返しすること。受けた恩に感謝の意を表す卒業式の後の謝恩会などは、わかりやすい恩返しのかたちと言えるでしょう。

それに対して、誰かから親切や善意を受けたら、それを相手に返すのではなく、ほかの誰かに渡していくのが「恩送り」です。受けた恩を直接その人に返すのではなく、別の人に送る。そして、それを送られた人はさらに別の人に渡す。そうして恩が回っていくようになると、社会に正の連鎖が起きてくる、という考え方です。

たしかに、恩返しというものは、そう簡単にできるものでもありません。親や恩師への恩返しは、成長した自分の姿を見せることが何よりでしょうが、それには長い時間が必要です。でも、相手を限定しない恩送りなら、いま気づいた小さなことから始められますし、短い時間でもできます。阪神大震災で被災した人たちが、「私たちも多くの人に助けられたから」と東日本大震災の被災地に手を差し伸べたのも、まさに恩送りといえるものでしょう（同じようなことは他にもありますね）。